

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 日米沖縄返還協定/VOA存続問題

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43649

(02) 沖縄VOAのヴェトナム向け放送に関する報道

○
○
○
○

大 臣 御 書 部 210-28
 事務次官
 情報文化局長
 報道課長
 条約課長
 安全保障課長
 北米第一課長
 事務官
 アメリカ局長

沖縄VOAに関する報道について

47.8.2
 北米第一課

2日付読賣新聞夕刊(別添1参照)に掲載された本件記事に対するコナント次(別添2)の通り

1. 在沖縄VOA放送は、「VOA中継局の運営に関する交換名文」において使用

言語は、英語、中国語及び韓国語の4言語に限られているので、同中継局よりベトナム語の放送が行なわれることは

あり。 (参考5)

2. ベトナム語の放送は、フィリピン及びベトナムのVOA中継局より行なわれて

いる(別添2、各地におけるVOA中継放送の用語参照)ので、本件報道は比島

4. 参考照

ベトナム direct (297) の211号の2号

又はベトナム語のVOA放送の誤りであると考えられる。

3. 在、沖縄VOAの放送時間については、前記交換名文において近頃は日本の

政府の権限ある当局(郵政省)の承認を受けることとされている。

なお、本年6月始め沖縄VOAの定められた時間帯を越えて行なわれた

放送に対し、郵政省電波管理局は当該を通じて在京米大に対し最重に注意を喚

起しおいた電線があり(別添3参照) 假に本件報道が事実とすれば当該

半側よりわが方に在るかの連絡がある。

4. ~~以上の諸英字、本件報道、前記~~
~~2)の放送の誤報であると認めらる。~~

なお、本件報道に対し郵政省電報
管理局より当課(沼田事務官)に対し

沖縄VOAは、(1)前記交換公文に
認めらるる21日放送時向を載せられた

送し21日とは存し、(2) ~~前記交換公文~~
~~の放送を行なつた21日~~ ^{米側との放送計画} ~~の誤り~~

に基き承認した周波数の中に、ハルハル 何ハル 何ハルと
連続した。

い
る
の

沖縄V.O.A、宣伝基地に

「北」の戦意喪失ねらう

予算、人員も大幅増強 米紙

【ワシントン通信】二日ワシントン通信社が利用しているV.O.A中継局が利用される。この中継局は、北ベトナム空軍司令部の戦意喪失をねらうための宣伝活動に活用される。この中継局は、北ベトナム空軍司令部の戦意喪失をねらうための宣伝活動に活用される。

この中継局は、北ベトナム空軍司令部の戦意喪失をねらうための宣伝活動に活用される。この中継局は、北ベトナム空軍司令部の戦意喪失をねらうための宣伝活動に活用される。

この中継局は、北ベトナム空軍司令部の戦意喪失をねらうための宣伝活動に活用される。この中継局は、北ベトナム空軍司令部の戦意喪失をねらうための宣伝活動に活用される。

取扱注意

各地におけるV O A 中継放送の
用語
昭和46.11.15
アメリカ局北米第一課

言語	V O A 中継局所在国
アルバニア語	モロッコ、ギリシャ、英国
アラビア語	ギリシャ、リベリア、西独、モロッコ、英国
アルメニア語	ギリシャ、モロッコ、英国
ベンガル語	タイ、フィリピン
ブルガリア語	モロッコ、英国、西独
チェコスロヴァキア語	西独、モロッコ、英国、リベリア
エストニア語	西独、モロッコ、ギリシャ
フランス語	リベリア、ギリシャ、モロッコ、英国、西独(いずれもアフリカ向け)
グルジョア語	ギリシャ、モロッコ、英国
ギリシャ語	モロッコ、英国
ヒンディー語	セイロン、リベリア、ギリシャ、モロッコ、英国、フィリピン
ハンガリア語	西独、モロッコ、英国、リベリア
ラトヴィア語	ギリシャ、モロッコ
リトウニア語	西独、ギリシャ、モロッコ
ポーランド語	西独、モロッコ、英国、リベリア

ルーマニア語	モロッコ、ギリシャ、英国
ロシア語	西独、モロッコ、英国、リベリア、ギリシャ、フィリピン、 <u>沖繩</u>
セルビアクロアチア語	モロッコ、ギリシャ、英国
スロヴェニア語	西独、モロッコ、英国
スワヒリ語	リベリア
トルコ語	ギリシャ、モロッコ
ウクライナ語	西独、モロッコ、英国、ギリシャ
ウルドゥー語	セイロン、リベリア、ギリシャ、モロッコ、英国
<u>英語</u>	セイロン、リベリア、西独、モロッコ、英国、ギリシャ、フィリピン、 <u>タイ</u> 、 <u>沖繩</u>
ビルマ語	フィリピン
カンボディア語	タイ、フィリピン
<u>中国語</u>	フィリピン、リベリア、 <u>沖繩</u>
インドネシア語	フィリピン
<u>朝鮮語</u>	フィリピン、 <u>沖繩</u>
ラオス語	タイ、フィリピン
タイ語	フィリピン
<u>ヴェトナム語</u>	<u>フィリピン</u> 、 <u>ヴェトナム</u>
ポルトガル語	リベリア
スペイン語	中継なし(米本国からのみ)

(以上合計34カ国)

現行の運用

別紙

北米一線

VOA 放送時間帯の無許可変更について

郵政省の76-4 1222

47.6.1

米CC1

1. (日) 郵政省電報管理局 40 号 4 日 454 1222 米CC1. に 27C2 要旨 次々 あり 要請 研 究.

(1). 5月15日 藤本電報管理局長 宛. 2759-公 宛 宛の書簡は VOA 加 周波数 6010 kc 1200

15210 kc に 7112 番々 20:00 - 01:00 の時間帯
に 放送 進行 許可 27C2 113 12E 4.37.
承認

現地 (中略) の 5月 報告に 依りて. 5月 31日 日
前記の 周波数 中. 前者 20:00 - 01:30, 米

GA-5

外務省

後者 20:32 - 01:30 と 前記書簡に
違反 放送 進行 2113.

(2). 後記 時間帯の 変更 あり 場合 1:12 米CC2
20 頁 連絡 L. 郵政省 許可 得 2 欲 あり 米

外務省 47 頁 米 宛 申 込 願 望 あり.

2. 加 米 (米CC1.) 57 頁 27C2 113 12E 4.37.
と 77.

1. の 趣旨 と 経緯 等 に 注意 喚起 あり 米.

3. 2日. 在米 米 27C2 113 12E 4.37. 米 5月 12 日 現 地 へ

(VOA 米CC1)

(1) 合 米 76-4 1222. 時間帯 に 変更 あり 20 頁 27C2
113 12E 4.37. carry 27C2 113 12E 4.37.

米 76-4 1222 米 5月 12 日 very occasional あり 米
あり. (1) 米 5月 12 日 日本 政府 に 連絡 あり 米

あり 遺憾 に 思 あり. 12 日 米 5月 12 日 あり 米
あり 76-4 1222 米. 現地 → 大 米 公 館 (Mr. Powell)
→ (外 務 省) → 郵 政 省 あり 米 5月 12 日 あり 米

GA-6

12-12 米 5月 12 日, と あり 米. (米 5月 12 日 あり 米
外務省 47 頁 米 宛 申 込 願 望 あり.)

VOA

Richard Reston
327

0
0
0
0
0
0

(注) 8/10 (本)
送字林氏

U.S. Steps Up N. Viet Propaganda Broadcasts

Voice of America Reported Sending Lists of War Prisoners, World Developments

BY RICHARD RESTON
Times Staff Writer

WASHINGTON — Shortly after North Vietnam launched its invasion of South Vietnam this spring, the White House ordered a stepped-up propaganda campaign designed to weaken Hanoi's morale and stir up trouble among the populace.

Informed sources Tuesday said the Voice of America is now beaming Vietnamese language broadcasts into North Vietnam on almost an around-the-clock basis. Broadcast time has risen from five to 13 hours daily since the beginning of April.

The United States also has introduced new programming techniques in an attempt to sway North Vietnamese opinion.

About six weeks ago, for example, the Voice began carrying long lists of names of North Vietnamese prisoners held in South Vietnam. The names cover prisoners captured both before and during the current invasion that began March 30.

The broadcasts include name, rank, serial number, place of birth and, when possible, the names of closest relatives.

Each daily broadcast cycle, lasting from 3 p.m. to 9 a.m., Hanoi time, begins with an hour-long program identifying the North Vietnamese prisoners. This is repeated later in the cycle with additional prisoner information on other programs.

The propaganda drive moved into high gear in late May and early June at the height of the North Vietnamese offensive. On June 5 U.S. planes dropped millions of leaflets over North Vietnam calling attention to the new broadcast schedules and transmitting frequencies.

Short-wave broadcasts are beamed into North Vietnam from the West

Coast of the United States through relay stations in the Philippines and Okinawa. Medium-wave programs are transmitted from Hue in South Vietnam.

The emphasis of the programs has changed, however, with greater stress now placed on international developments adverse to North Vietnam. The objective is to encourage any elements of North Vietnamese leadership who might be arguing against prosecution of the war on its present scale.

Accordingly, the programs stress new moves toward wider Soviet-American and Sino-American cooperation. It is believed in Washington that President Nixon's trips to the Soviet Union and China have discouraged, and may have divided, the North Vietnamese leadership.

In recent days, developments concerning U.S., Chinese and Soviet efforts to reach an accommodation accounted for 15% of voice air time. Related Vietnam items took up 40%.

Administration officials believe their propaganda campaign is beginning to strike home. They base their judgment on intelligence estimates, interrogation of North Vietnamese prisoners in South Vietnam and on Hanoi's increasingly sensitive propaganda line.

Late last month a North Vietnamese newspaper said:

"The enemy has intensified espionage in the hope of collecting information and has actively conducted psychological warfare activities in the hope of quenching our armed forces' and the people's determination to fight and win . . .